

会 議 要 旨 書

会議名	第 21 期三鷹市立図書館協議会 第 7 回定例会
日 時	令和 4 年 5 月 19 日（木）午後 2 時
場 所	三鷹市立三鷹図書館（本館）第 1 集会室
出席委員 （12 人）	福島健明 並木茂男 山下政一 小谷奈保子 松田秀穂 土屋菜々 倉田清子 間部豊 大塚敦子 松本直樹 横山和男 梅林愛子（敬称略）
欠席委員 （0 人）	
行政職員 （5 人）	三鷹市立三鷹図書館館長 大地好行 図書サービス係長 池上真理子 管理係長 榛澤孝 管理係主任 伊藤照美 管理係主事 岩崎祐美
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴人数	0 人
<p>【議事】</p> <p>1 委員の交代について</p> <p>2 前回の協議内容の確認について A 委員より第 6 回会議要旨 2 頁 20 行目について、「公募の方から幅広い視点で何かご意見はないか」等の記述にと修正があった。</p> <p>3 行政報告 ・大地館長 配布資料「図書館協議会行政実績・予定報告（4 月 21 日～5 月 18 日）」に沿って説明（意見なし）</p> <p>4 「三鷹市立図書館の基本的運営方針」の点検・評価について ・大地館長 配布資料「令和 3 年度三鷹市立図書館の基本的運営方針に基づく点検・評価（案）」について説明 ・A 委員 図書館協議会としては、本日頂いた意見・疑問点及び次回までに頂いた意見等から協議会としての意見をまとめる。昨年度は数値目標や基本的運営方針の 4 つの柱ごとに実施された事業に対して出された委員の皆さんの意見をまとめ A4 用紙 2 枚程度にまとめて提出している。 ・大地館長 図書館で行った自己評価について本日ご説明する。いただいたご意見をもって、とりまとめ、6 月の定例会で最終調整を行う。確定後点検・評価表と併せて市民に公開する。時間がないためメールでのご意見も受け付ける。期限は別途事務局からお知らせする。 ・A 委員 意見と言うのは図書館の点検・評価に対するものであり、アンケートに対しては協議会としての意見は求められていないということか。 ・大地館長 点検・評価にあたりアンケートを実施したため、その結果をお知らせしている。</p>	

- ・B 委員 点検・評価の数値目標値の算出根拠はどうなっているか
- ・大地館長 年次での増減の傾向をみながら図書館としての事業的な要望も加えて達成すべき目標として算出している。
- ・B 委員 目標については達成に対する考え方に関連してくるため、算出根拠がしっかりしていた方がよい。
- ・大地館長 次回設定する際検討する。
- ・C 委員 アンケートの回答に「わからない」項目が多い。事務局の分析はどうなっているか。
- ・大地館長 図書館が提供するサービスについて、利用者に対するお知らせが足りていないというご意見を頂いているものと考えている。図書館ができることについて宣伝活動をしていきたい。
- ・C 委員 事業と評価項目の吟味も必要ではないか。このままだと「わからない」が続く。
- ・B 委員 回答者がサービスを利用していないからわからないということはないか
- ・大地館長 サービスをしていること自体を知らないからわからないということは当然あると考えている。ただ、図書資料の関係については「満足である」「不満がある」などの評価がいただけるよう活動したい。
- ・D 委員 回答者の年齢層が偏っている。分析の時に整理をしないと「わからない」ばかりになる。
- ・B 委員 設問として、例えば「一般図書を利用していますか」に「はい」であれば「はい」に対して満足度を計るなどアンケートの設計を考えていくとよいのではないか。
- ・G 委員 利用者の登録アドレスにアンケートをメールで送れないか
- ・大地館長 アドレスの利用目的にアンケートでの使用を入れていないので実施していない。できることがあるか調査してみる。
- ・G 委員 図書館資料の充実については「図書館にあなたの目的の本がありましたか」と聞いたらどうか
- ・大地館長 図書館としては資料収集方針等に基づいて資料を収集している。「本が無かった」と言われたとき、それが図書館として収集するべき本だったのかの判別ができないため、その回答に対する判断は難しい。良い設問があれば参考にしたい。
- ・A 委員 調査の連続性を考えると設問を変えるのは難しいのでは
- ・大地館長 どこかで一度総括して、設問の設定については必要な変更をしていきたい。
- ・福島委員 「興味がない」「選択肢がない」などの選択肢があれば「わからない」は減るのではないか
- ・大地館長 回答のし易さについては、次年度に向けて見直しを行う。
- ・D 委員 点検・評価表について、POP 大賞など実施事業が記載してあるが、それによってどのような効果があったのか。効果まで記載があるといいのではないか。実施する意味についてどう考えているのか
- ・大地館長 POP 大賞によって貸出が大きく増えるということはない。図書館としては利用者が知らなかった本を発見する手段・本とである切り口になればよいと考えて実施している。

5 PTA 連合会からの要望について

- ・A 委員 PTA 連合会からの要望に対して図書館への対応依頼の内容を配布資料「学級文庫制度の運営における保護者負担軽減（回答）」等を基に説明
 - ・E 委員 図書館協議会の意見を受けて、もう一度図書館から PTA 連合会に回答があるのか。
 - ・大地館長 図書館協議会からご意見をいただいたので、これを受けて事業を考える。回答文として出すのではなくこういう形ではどうかなどと提案し、可能な形で事業化を図る。
 - ・E 委員 PTA 連合会は、回答を待っている。
 - ・A 委員 予算化が必要ということになると、今年度は無理なのではないか。
 - ・F 委員 今年度の改善が無理だということを含めて伝えるべきだ。
 - ・大地館長 事業内容については難しいが、制度設計・予算化などに向けての単純なスケジュールは必要であれば示すことはできる。
 - ・A 委員 ぜひ検討していただきたい。
 - ・G 委員 負担軽減の中に資料の選定とあるが。
 - ・E 委員 選書については PTA の方でやりたいという方も多い。
 - ・G 委員 資料選定は負担軽減の中に入らないか
 - ・E 委員 学校によって選定は役員がしたいが運搬はしてほしい、選定も運搬もしてほしい、運搬のみしてほしいなどいろいろだが、資料の運搬にいちばん負担が大きい。運搬をやって欲しいというのが根本的な要望
 - ・A 委員 回答文についてご意見がないので、こちらを提出するということでよいか。
(異議なし)
 - ・A 委員 なるべく早く負担軽減を図って欲しいという意味で期間を付す形に変更して、PTA 連合会に提出する。引き続き論点の整理を行う。
 - ・F 委員 PTA 連合会としては選書までは臨んでいない。
 - ・E 委員 図書館ではなく、学級に本があることが重要
 - ・F 委員 学校の玄関までもっていくということで到着日時だけ決めて置ければ対応ができる。
 - ・B 委員 学校まで届けるということについて、制度設計をすればよいのか
 - ・F 委員 そのとおりである。ただ、学校ごとに柔軟性があつた方がよい。
- 学校側の受け取りの対応に対しては、運搬に玄関まで運ぶ、本を学級まで届ける等
- ・大地館長 図書館としては今後校長先生のご意見も聞いて制度設計をすることになるが、柔軟な対応をしすぎると制度が維持できなくなると考えている。ある程度同じ形で対応したい。そこはご理解いただきたい。

6 その他

次回は令和4年6月16日（木）午後2時から三鷹図書館第一集会室で開催